

沢野の町から広げる、あたたかい輪

沢野小学校 六年 金井 紗愛

「おはようございます」

毎日、私たちか登校するとき、地域の見守り
隊の方々が笑顔で挨拶をしてくれます。沢野
小学校の周りには大きな道路があつて車通り
も多いです。この元気な挨拶を聞くとき、私
の心はパツと明るくなります。最高学年にな
った私たちは、下級生の安全に気を配りな
から班長・副班長として登校しています。地
域のみなさんに見守られているという安心感
は、私たちにとつても大きな支えになつてい
ます。

私は最初、「社会を明るくする運動」とい
う言葉を聞いたとき、警察の方のパトロール
や、大人が行う難しい活動なのだと思つてい
ました。中学生や高校生がおこす非行、大人
たちの犯罪をなくすための運動であり、小学
生の自分たちにはあまり関係のない遠い世界
の話のように感じていました。しかし、今回

この作文を書くときまでに、「社会を明るく
する運動」について自分で調べたり、地域の
方々との関わりをふり返ったりするうちに、
その考えが変わりました。
社会を明るくする運動の目的は、ただ犯罪
を厳しく取り締まることだけではないと知り
ました。『だれもが一人ぼっちにならず、も
し失敗してしまっても、もう一度みんなで支
え合ってやり直せる地域を作ること』こそが、
本当の目的だったと思います。そしてそれ
は、私たちが毎日過ごす沢野小学校の仲間関
係や、この沢野の町での暮らしに深くつなが
っていることに気づきました。
では、もうすぐ中学生になる私たちにでき
ることはなんでしょうか。私は、いつでも、
だれにでもできる『挨拶と心の声かけ』だと
思います。

以前、委員会活動の中で、ある下級生が大
きい声かたせなくて何回も注意されていたと
きがありました。周りの空気も少し気まずく

なり、だれも声をかけないまま時間が少し流
れていきました。私は最高学年として声をか
けたほうが良いと思い、「大夫丈だよ、もっ
とお腹に力を入れたら声が出しやすくなるよ。
一緒にやってみよう」と声をかけ、一緒にや
り直しました。次に全員であわせたときは、
しっかりとできてその下級生も笑顔になっ
て、終わりました。

このとき私は、人はだれからも声をかけら
れず、自分ほだめだ」と一人ぼっちになっ

てしまうことが一番つらいのだと思いました。

あの時だれも声をかけずに放っておいたら、

その下級生は委員会活動がきらいになり、学

校に来るのも楽しくなくなっていたかもしれ

ません。

ニュースで見る非行や悲しい事件の原因に

も、だれにも相談できずにさびしい思いをし

ていたり、自分の居場所がないと感じたりす

ることが関係していると思います。最初は小

さなさびしさや一人ぼっちな時が、だんだん

と大きくなり、間違った道へ進む原因になっ
てしまうのではないかと思います。もし、周
りに一人でも話をきいてくれる人がいたり、
「おはよう」と挨拶を交わしてくれる人がい
たりすれば、そのさびしさは消え、悪い道へ
進むのを防げたかもしれません。
社会を明るくするということは、特別な人
になるわけではありません。沢野小学校のみ
人なか、目の前で困っている下級生や友達に
「どうしたの？」と声をかけたり、近所の人
に自分から元気に挨拶をしたりすることの積
み重ねです。一人一人の声かけが、たれかの
心の「居場所」を作り、それが犯罪や非行の
ない安全な社会の基本になるのだと思います。
あと八ヶ月で、私たちはこの沢野小学校を
卒業し、中学校という新しい環境へ進みます。
だからこそ、毎朝地域の方々からいたかくあ
たたかい挨拶を、今度は私たちが進んで周り
の人や次の上級生へとつないでいきたいです。
たれ一人として一人ぼっちにさせない、笑顔

あふれる沢野の町を作るこゝ。その小さな一歩を、私は最高学年としての責任と自覚を持って、これから大切にしていきたいです。